

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和元年6月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①～③、図2～3）

山頂に設置した監視カメラでは、昭和4年火口、96年南火口列、明治火口のごく弱い噴気がそれぞれ観測されました。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図4）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図5～6）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

5月21日から23日にかけて行った山頂付近のGNSS繰り返し観測によると、昭和4年火口を囲む基線で引き続き伸びが認められました。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情復、第958号）。

今回の火山活動解説資料（令和元年7月分）は令和元年8月8日に発表する予定です。

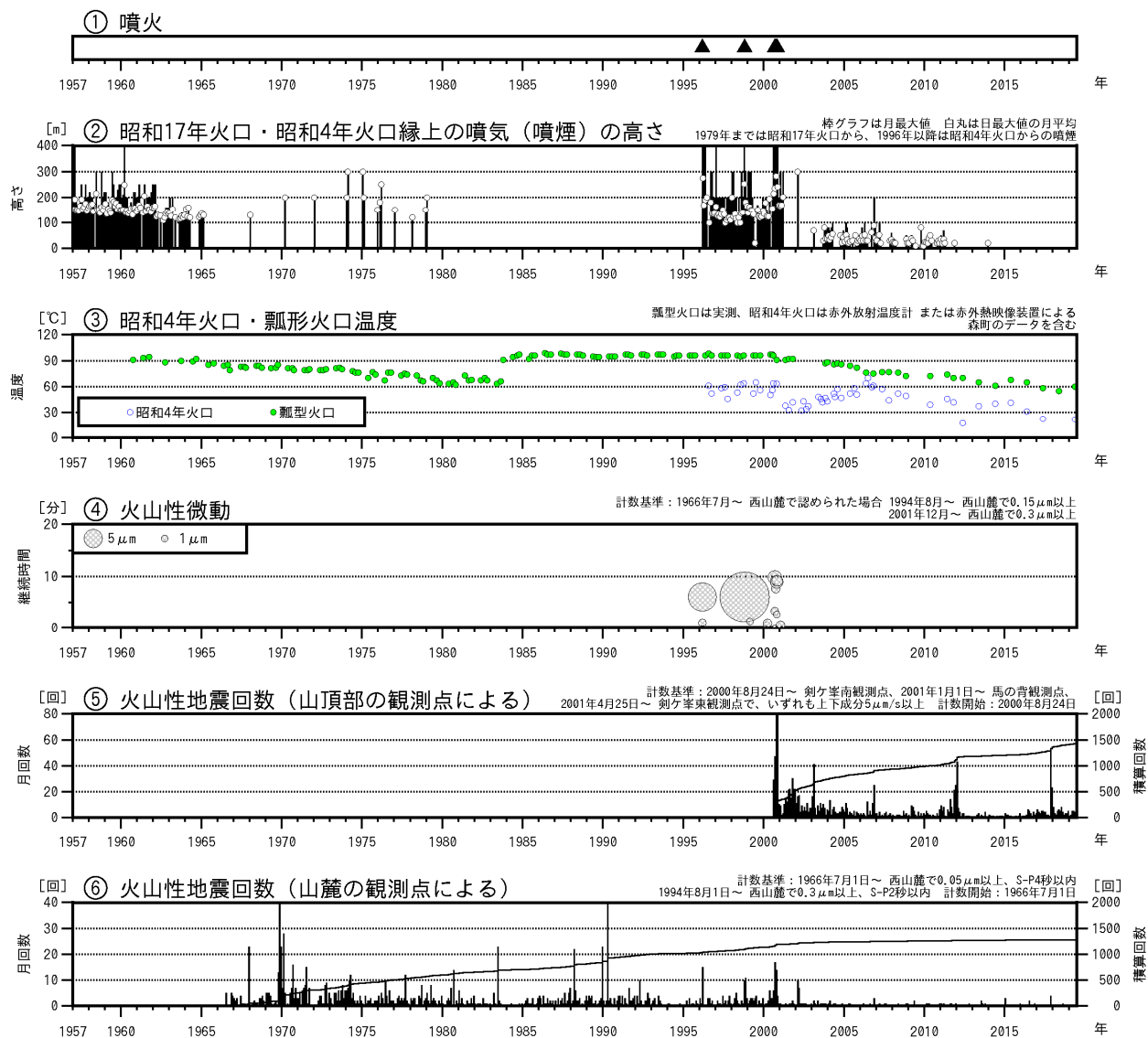


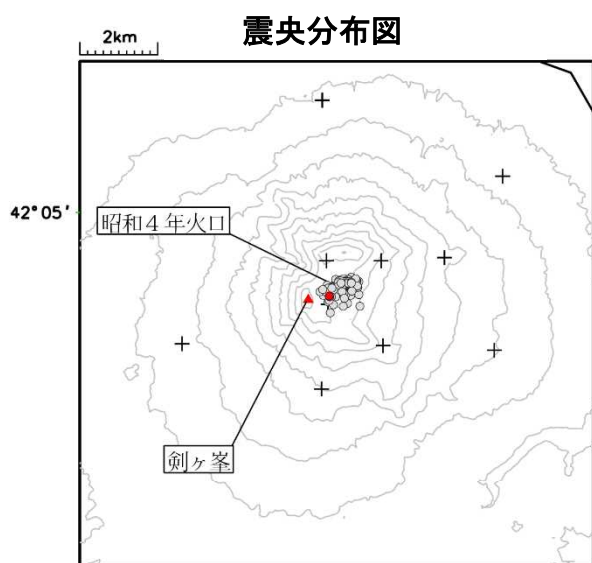
図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2019年6月）



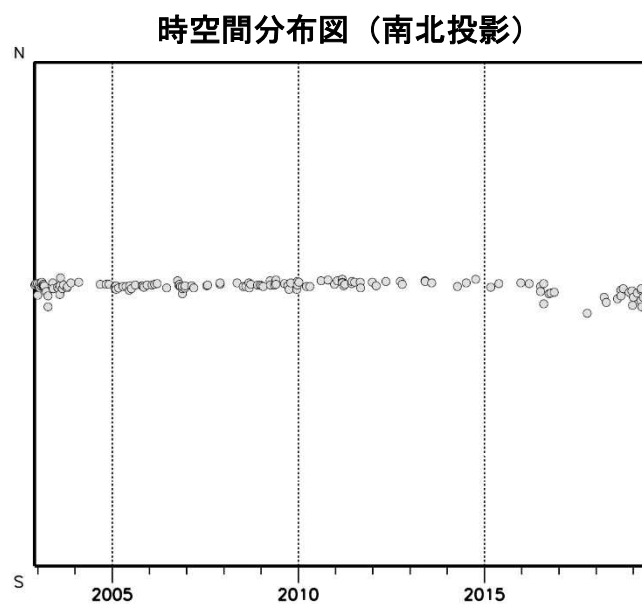
図2 北海道駒ヶ岳 火口周辺図



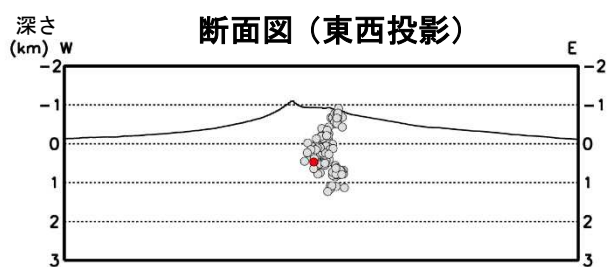
図3 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口で観測されたごく弱い噴気
（6月20日、剣ヶ峰監視カメラによる）



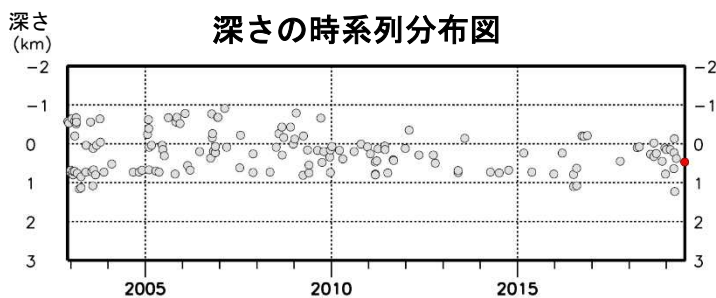
震央分布図



時空間分布図（南北投影）



断面図（東西投影）



深さの時系列分布図

図4 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2002年12月～2019年6月）

●印：2002年12月～2019年5月の震源 ●印：2019年6月の震源
+印：地震観測点

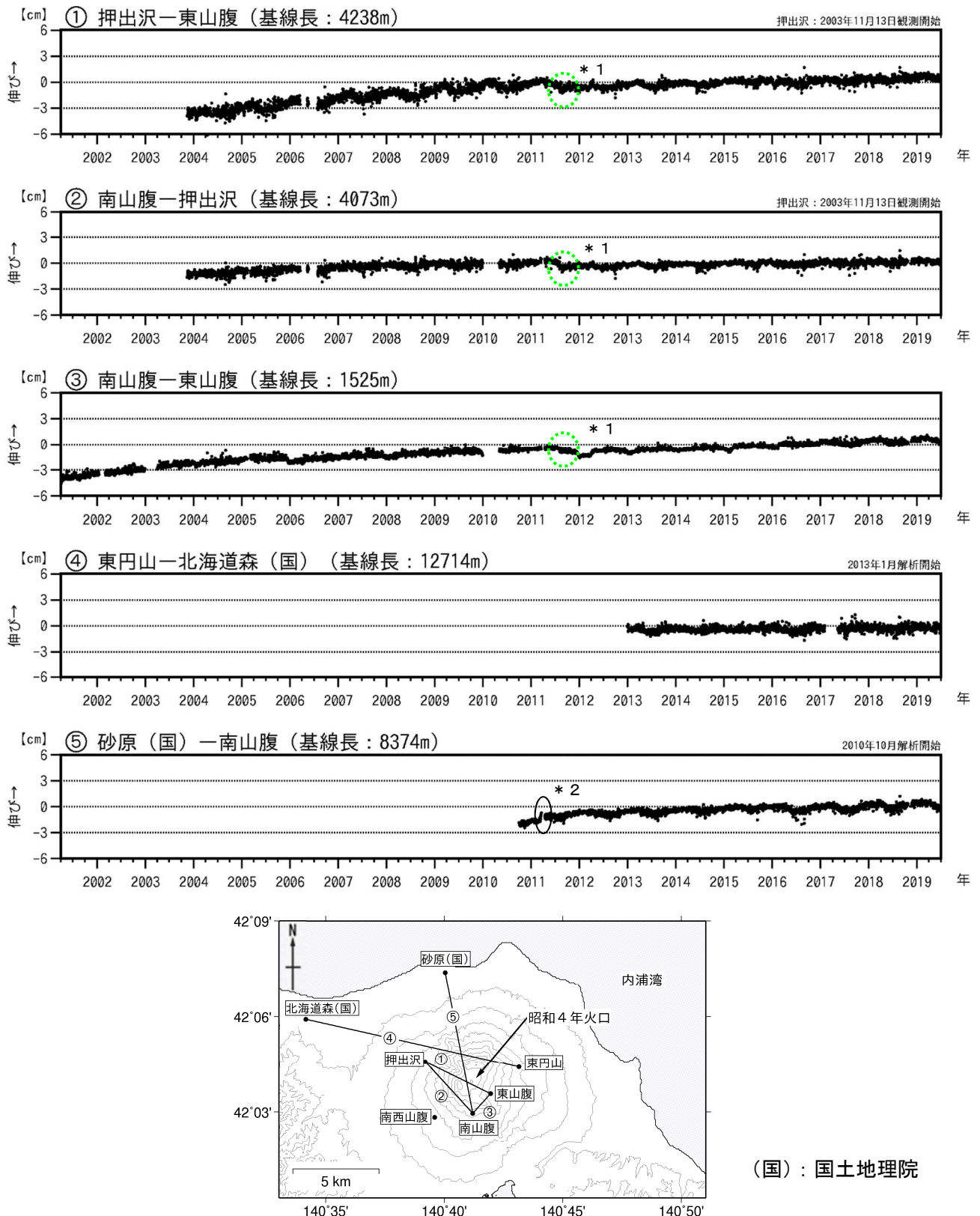


図5 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2019年6月）及び観測点配置図
 GNSS基線①～⑤は観測点配置図の①～⑤に対応しています。
 GNSS基線の空白部分は欠測を示します。
 ①～③の緑点線円内の変動（* 1）は、機器更新によるものです。
 ⑤の黒楕円内の変動（* 2）は、2011年3月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の影響によるものです。
 2010年10月及び2016年1月に解析方法を変更しています。

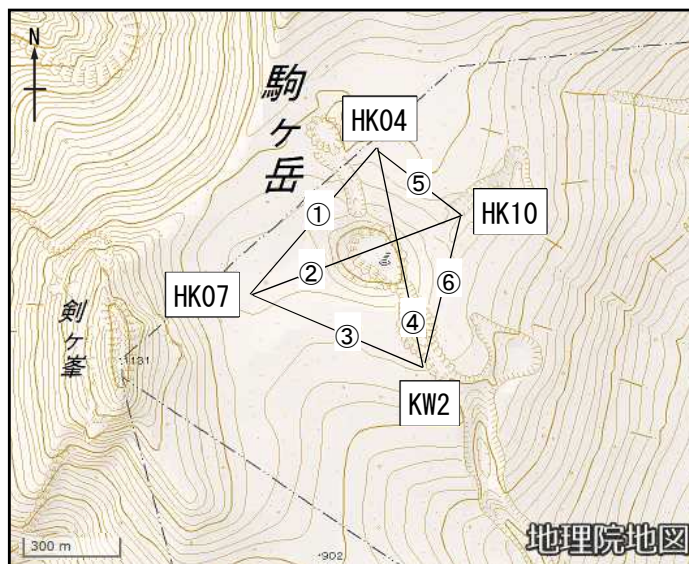
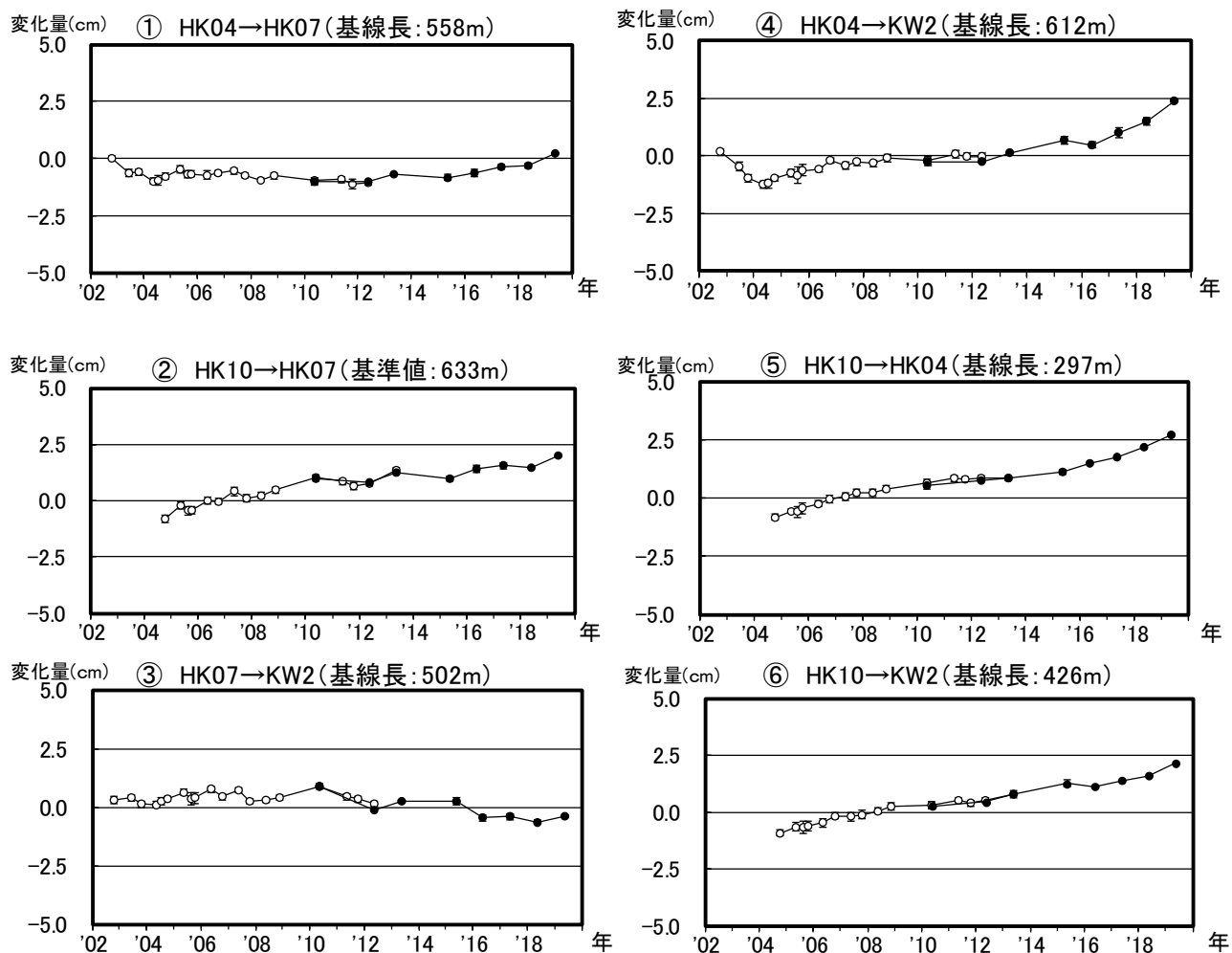


図6 北海道駒ヶ岳 GNSS繰り返し観測による火口付近の基線長変化（2002年4月～2019年6月）及び観測点配置図

GNSS基線①～⑥は観測点配置図の①～⑥に対応しています。

2013年に解析方法を変更しています。○は従前の解析方法での解析結果、●は新しい解析手法での解析結果を示します（2010年～2012年のデータを再解析した結果を含む）。

- ・ 昭和4火口を囲む基線で、引き続き伸びが認められました。

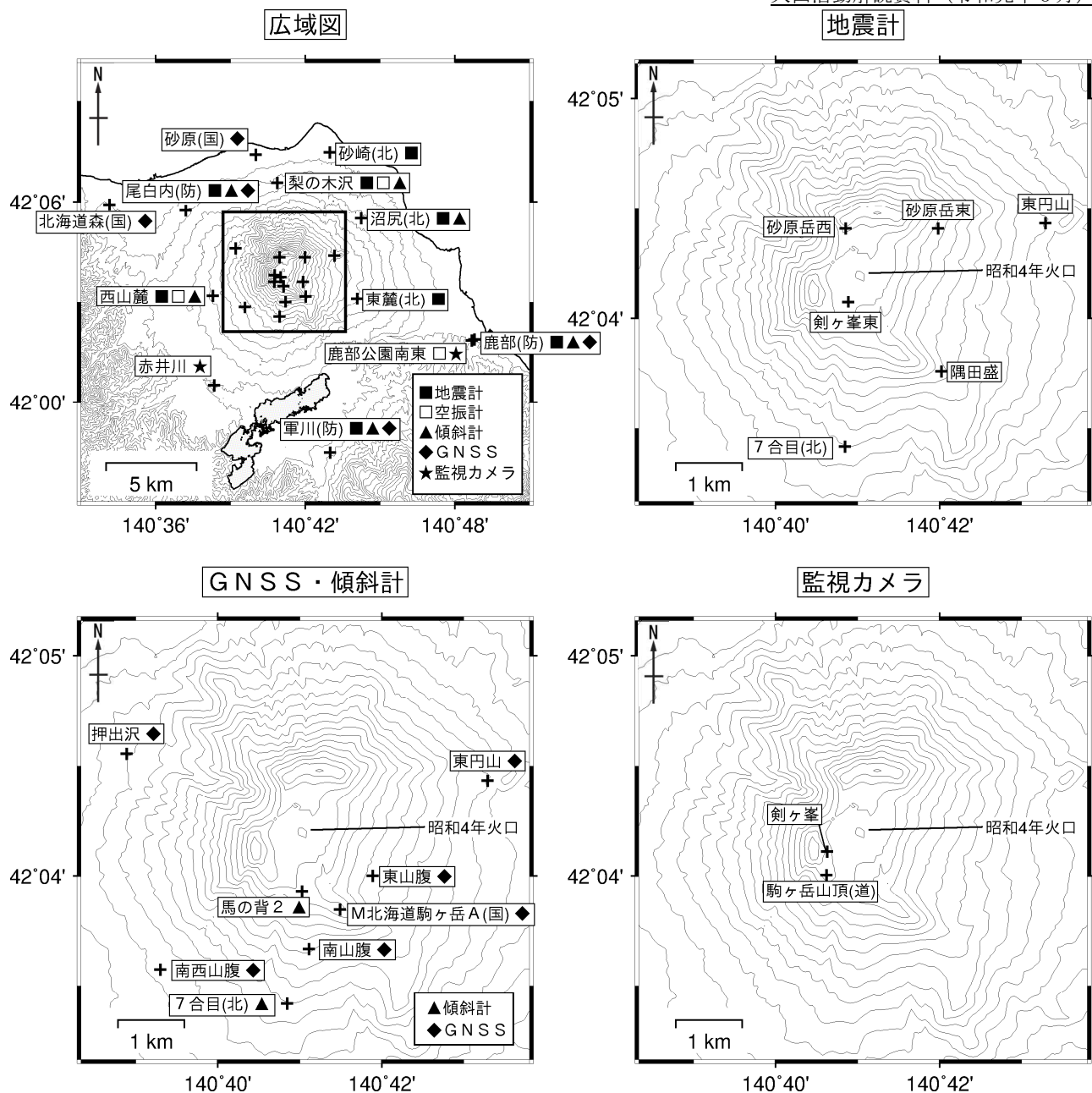


図7 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の口で示した領域を拡大したものです。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学

(防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所

(道)：北海道